

Gemini（無償版）が生成した*
「子どもの権利とビジネス原則」実践のヒント

＊生成日：2026 年10月19 日。フォントサイズ等の体裁は一部読みやすい形に整えていますが、文言は生成された原文のままです。

【使用したプロンプト（指示文・質問文）】
人口１万人ほどの町でクリーニング店を個人で経営していますが※、ユニセフ等が提唱する「子どもの権利とビジネス原則」に基づいた形で本業を進めるにあたり、どのような取り組みができるでしょうか？ ユニセフ等が以下のURL 先のページで紹介する以下の諸ツールも参考に、できるだけ具体的な形で提案・例示してみてください。
https://www.unicef.or.jp/crb/tools/ https://www.unicef.or.jp/crb/tools/tools05.html

※ホームページをお持ちであれば、下線部を「次の URL の企業（事業所・店舗）に」に置き換え URL を記入いただくだけでも回答が得られるようです。

人口１万人規模の町で個人経営されているクリーニング店が、ユニセフ等の提唱する「子どもの権利とビジネス原則」を取り入れることは、地域社会の信頼（事業の社会的認証）を高め、持続可能な店舗経営を行う上で非常に有意義なアプローチです。

大企業のような大規模な人権デュー・ディリジェンスは難しくとも、ユニセフが提供する各種ツール（特に「**企業の子育て支援ツールキット**」や「**チャイルドセーフガーディング**」など）のエッセンスを取り入れることで、個人商店だからこそできる「**職場**」「**市場（サービス・接客）**」「**地域社会**」に根ざした具体的な取り組みが可能です。

クリーニング店の本業に即した具体的な取り組みを、３ つの柱に分けてご提案します。

1.「職場」としての取り組み：家族に優しい職場環境づくり

ユニセフの「企業の子育て支援ツールキット（Building Family-Friendly Workplaces）」は、サービス・接客業における実施ガイドや、従業員が親・ケア労働者としての責任と仕事を両立できる環境づくりの重要性を説いています。もし従業員を雇用している、あるいは将来的に雇用する場合、またご自身の家族経営において以下が実践できます。

- **子育てに柔軟なシフト・勤務体制の導入**
  - 子どもの急な発熱や学校行事（参観日、運動会など）の際に、気兼ねなく休みやシフト変更ができる職場風土をつくる。
  - 営業時間の合間に中抜けして子どもの送り迎えができるなど、個人店ならではの融通の利く勤務形態（時短勤務や中抜け制度）を整える。

- **従業員の「親としての尊厳」を守る適切な賃金・待遇**
  - 地域の物価水準に合わせ、子育て世帯が安定して暮らせる適正な労働条件や生活賃金を確保する。

【免責事項】 本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

2.「市場（接客・客層）」としての取り組み：子どもの安全と安心に配慮したサービス

「チャイルドセーフガーディング（Child Safeguarding）」の視点は、店舗の日常業務や顧客対応において子どもの安全を守る手順に役立ちます。

- **店舗の物理的な安全確保（バリアフリーと危険の排除）**
  - 子ども連れのお客様が来店した際、カウンターの角や什器で怪我をしないようクッション材を貼る。
  - クリーニング機械の周辺や洗剤・薬剤の保管場所、バックヤードに子どもが絶対に立ち入れないよう施錠や動線の工夫を行う。

- **衣類の安全とアレルギー配慮**
  - 子どもの肌は非常にデリケートです。ベビー服や学生服のクリーニングにおいて、肌への刺激が少ない無添加石けんや天然由来の洗剤・柔軟剤を使用する、またはそれらを選択できるコース（肌に優しいコース）を用意する。
  - 返却時の「ビニールカバー」による子どもの誤飲・窒息事故を防ぐため、注意書きを大きく明記するか、手渡し時に一言注意を促す。

- **学生服などのプライバシー保護と配慮**
  - 中高生の制服を預かる際、名札やポケットの遺失物に個人情報が含まれている場合があるため、その管理を徹底する。また、本人や保護者が不快・不安に思わないような丁寧でプライバシーに配慮した接客（名前の呼び方、衣服の扱い）を心がける。

3.「地域社会」への貢献：1 万人の町だからこそできるコミュニティ連携

ユニセフのツールでは、子どもを単なる「守られる存在」としてだけでなく、地域社会の重要なステークホルダーとして位置づけています。人口 1 万人の規模であれば、顔の見える関係を活かした地域貢献が本業を通じて実現できます。

- **「こども 110 番の家」など、駆け込み寺としての機能**
  - 店舗を「子どもが困ったときにいつでも駆け込める安全な場所（こども 110 番の家）」として登録・周知し、地域の子どもの見守り活動に参画する。

- **学生服のリユース・支援活動**
  - 家庭経済が厳しい世帯や、子どもの成長が早く制服の買い替えが負担になっている家庭を支援するため、卒業生から不要になった制服を寄付してもらい、店舗で綺麗にクリーニングした上で、必要な家庭へ安価または無償で譲渡するシステム（制服バンク）を立ち上げる、あるいは地域の福祉団体と連携する。

- **職場体験（キャリア教育）の受け入れ**

【免責事項】　本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。

- 地元の小中学校の「職場体験」や「町探検」を積極的に受け入れる。ユニセフの「子どもはみんなのビジネス」の精神に基づき、次世代の若者に働く楽しさやアイロンがけのプロの技術、衣類を大切にする「サステナビリティ（持続可能性）」の意識を伝える機会をつくる。

まとめ：最初の一歩として

まずはユニセフのツールを活用したセルフアセスメント等で現状を振り返り、コストをかけずにできる身近な工夫から始めてみましょう。子どもを大切にする姿勢は、顧客の信頼や経営の安定に直結します。

まずはどの領域から手を付けられそうか、お店の現状に合わせてさらに掘り下げたい部分はありますか？

【免責事項】　本文は、参照元 URL 等の情報をもとに人工知能（AI）が自動生成したものです。記載されている内容は AI による要約・解説であり、必ずしも国連児童基金（ユニセフ）や日本ユニセフ協会の公式な見解や方針を示すものではありません。